

回覧



わがまち池上

池上管内世帯人口数
(外国人住人を含む)
(令和6年9月1日)

- ・世帯数 25,101
- ・人口(男) 22,469
- ・人口(女) 23,089
- ・人口(計) 45,558

発行：地域力推進池上地区委員会

編集：地域情報紙
「わがまち池上」編集委員会

事務局：大田区池上特別出張所
〒146-0082 大田区池上1-29-6
電話 (3752) 3441(代)



発行日3・6・9月の25日、12月15日

昭和40年生まれの榎本真大さんが閉店を決意したのは「昨年の年末のクリスマス後のことです。本門寺への初詣のお客様を迎えたかった」とその苦渋の決断を振り返りながら、欧風菓子エノモトの歴史を語り出す。「創業は大正11年で、祖父の重市が蒲田駅西口で三河屋製パン

2月17日、欧風菓子エノモトの店頭に、突然「閉店のお知らせ」の貼り紙が掲げられました。「1922年創業以来、パン・ケーキ・喫茶と102年に亘り地元の皆様にご愛顧頂きましたが、工場建物の老朽化により、2024年3月17日(日)にて閉店させて頂く事になりました。お客様には心よりの感謝を申し上げます。残り少ない日々ではございますが、従業員一同、皆様のご来店を心よりお待ちしております。」



池上の昔を語る(35)

榎本真大・知代さんに聞く

(欧風菓子エノモトの閉店・池上6丁目)

昭和9年生まれの父・久雄は立教大学を卒業後、三河屋製パン所に入社し、昭和33年ごろ喫茶店を併設しました。昭和55年、現在のエノモトビルを建設しましたが、62〜63年頃父はパン屋をやめ、ケーキ屋と喫茶店に切替えました。パン工場は、最後まで営業した喫茶室の窓から庭が見えたと思いますが、そこにありました。一階がパン、二階がケーキ、三階が資材置場でした。

私が父から経営を引き継いだのは30年前の27歳の時でした。徳持小学校に通っている頃は塾通いでした。中高大と玉川学園で、家の前の池上駅から池上線で五反田に出て、山手線に乗り新宿から小田急線を通いました。大学卒業後中外製薬に入り、四年間MR(医療情報担当)の仕事に従事しましたが、姉から、引き継ぐのならはっきりしなさいと助言されて、引き受けることになりました。

所として始めました。愛知県の出身だったので三河屋と名付けたわけですが、池上に移ってきたのは戦後間もない頃で、三河屋製パン所としての再出発でした。昭和9年生まれの父・久雄は立教大学を卒業後、三河屋製パン所に入社し、昭和33年ごろ喫茶店を併設しました。昭和55年、現在のエノモトビルを建設しましたが、62〜63年頃父はパン屋をやめ、ケーキ屋と喫茶店に切替えました。パン工場は、最後まで営業した喫茶室の窓から庭が見えたと思いますが、そこにありました。一階がパン、二階がケーキ、三階が資材置場でした。



父が引退し、私が引き継いですぐケーキ工場を二階に移しました。ケーキを主力にしたので

す。それに伴い、欧風菓子エノモトを「エノモト洋菓子店」に変えました。が再び元の「欧風菓子エノモト」に戻しました。最初は午前8時から午後9時迄の営業でしたが、最終的には午前10時から午後7時迄になりました。

ケーキが一番売れたのはショートケーキでした。最初はたしか一個200円でしたが、閉店時は680円でした。人件費と材料費の高騰に立ち向かってきたつもりだったのですが、閉店の貼り紙を出して数日後からお客様が押し寄せるようになり、ビックリしました。

もう随分前からビルの老朽化が始まり、いろいろ手立てを検討したのですが、配管を修理するだけでビルを解体しなければならなくなり、リフォームを諦めざるを得なくなりました。

祖父は三代目が潰すと言っていたのですが、その通りになってしまいました。池上に移って70年以上、もちろん本当はやめたくなかったのです。85歳の母・知代さんを前に、榎本真大さんは、「4月初め、初めて池上本門寺に桜を見に行きました。こんなに桜があるのを初めて知りました。今度はお会式が楽しみです」と語ります。

鼓笛隊や吹奏楽、町会の方々などによるオープニングパレードが街なかを賑やかに行進しました。パレードが会館に到着すると、はねびょんやピーポくんなどのキャラクターが登場し、こどもたちは大喜び。写真撮影の長い列ができていました。

第19回池上まつりが8月25日(日)に開催されました。台風の上陸が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、開会前から池上会館の前には多くの人が集まりました。

西館でも、池上昔写真、輪投げ、ポッチャ、国際交流コーナーの工作やダンスなどに多くの人が集まり、東急線のキャラクターのいるんとの写真撮影会にも沢山の親子連れが参加していました。

会館内の「池上職人尽くし」では、表具、畳刺子、手描友禅などの素晴らしい伝統の技を披露。2階の展示ブースやお楽しみ抽選会には、早くから来場者が詰めかけました。

コーラスやダンス、ミュージカル、民謡など、幅広い年代の方々が楽しめる演出が続き、一方、野外ステージでは、厳しい暑さの中、キッズダンスやフラダンス、台湾舞踊などが繰り広げられ、フラットおたやKNOTTFREEなどの個性豊かで楽しいバンド演奏とトークに観客はすっかり魅了されました。

今や地域を超えて夏の風物詩となりつつある池上まつりですが、来年は20回目を迎えます。副実行委員長の平澤氏は閉会の挨拶の最後に「来年は池上まつりも記念すべき20回目の節目です。今からその準備に取りかかりたい」と、その意気込みを語られました。



池上まつり

感応寺と東之院

池上本門寺の五重塔の近くに小説『五重塔』の作者幸田露伴の墓所があります、この小説のモデルになったのが谷中天王寺の五重塔ですが、昭和32年（一九五七）の放火心中事件で消失してしまいました。

初めて天王寺の五重塔が建立されたのは寛永21年（一六四四）ですが、明和9年（一七七二）に起きた目黒行人坂大火は、三日三晩燃え続け、江戸市中まで延焼し、谷中の五重塔も消失してしまいました。

寛政3年（一七九一）に再建されましたが、前述のような予期せぬ事件の巻き添えで

再び消失し、のち再建される事なく、現在史跡として保存されています。

わが町池上本門寺の五重塔は、慶長13年（一六〇八）建立以来、震災・戦火から免れ、関東最古の五重塔として、国の重要文化財に指定されています。

初めて、谷中天王寺はかつて日蓮宗の感応寺と云う寺院でしたが、日蓮宗不受不施派に属していた為、幕府に咎められ天台宗に改宗され元禄11年（一六九八）に寺名も天王寺と改名されたのです。

感応寺はかつて江戸庶民が一攫千金の夢を託す富籤が開催され、湯島天神・目黒不動尊（瀧泉寺）とともに江戸の三富の一つとして盛名を馳せる名刹でしたので、幕府に復



興を懇願し続けてきました。百三十年以上の歳月が過ぎた天保4年（一八三三）に

なり、池上本門寺から出されていた日蓮宗への復帰の願いがやっと叶えられました。

しかし上野寛永寺の意向もあって谷中の天王寺はそのまま天台宗として残り、江戸の外れ目白磐城平藩対馬守下屋敷跡をあてる事が決められました。

現在の場所は目白三丁目駅から北側の西武鉄道の線路手前、今は閑静な住宅街となっていて、広大な敷地の一角は、尾張徳川家の末裔が住む「徳川ビレッジ」と呼ばれ、国宝「源氏物語絵巻」を初め文化的に貴重な美術品等を所蔵する重厚な造りの「徳川黎明會」の建物も、今も尾張徳川家の威厳を示す象徴のように建っています。

その昔、この一帯は鼠山と呼ばれ、当時この周辺の人たちは「鼠が感応寺を曳いてきた」と噂していたそうですが、しかし山号を長耀山感応寺として再建され本堂の入仏供養を行った僅か五年後の天保12年（一八四一）に、廢寺となってしまうのです。それには諸説あるのですが、

その一つに、復興を許した時の將軍「徳川家斉」の死去に伴い、天保の改革で知られる老中水野忠邦が廢寺を命じたとの説があります。その後、解体された木材は総本山身延山久遠寺祖師堂の再建に使われ、余材の一部は貴船坂の西側、東之院の再建にも使われました。

青少対だより

池上青少対の秋の行事が、今年も次のように開催の予定です。皆さんの参加をお待ちしています。

池上スポーツまつり ポッチャ交流会

昨年に引き続きポッチャ交流会を、池上小学校体育館で10月20日9時から12時30分に開催します。

パラリンピックでも大人気のポッチャですので、地域の参加者も募集して楽しく交流を深めたいと思います。皆さまの参加をお待ちしています。



池上ふれあいコンサート

11月3日（祝）13時より池上会館2階集會室にて開催します。

池上地域の保育園をはじめ、小・中学校、福祉園、各種団体などのステージを予定しております。

最後には皆さんと「マッペンサンバ2」で盛り上がりたいと思います。どうぞ、たくさんの方のお越しをお待ちしています。



俳壇

堤方北町会 山川 漢千

ニジエルの旅五句

風紋の
絶えず移ろひ
年暮るる

深閑と
怒涛めく砂
初日出づ

冬銀河サハラ砂漠に
雪崩落つ

ターバンの兵に目覚めぬ
砂漠冷ゆ

銃口に緋月冴ゆる
野営かな

池上五句

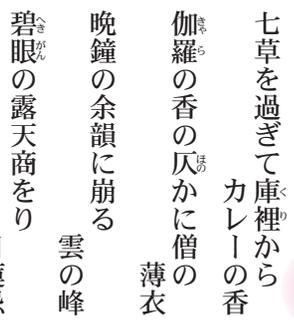
どや顔の
猿にご祝儀
初詣

七草を過ぎて庫裡から
カレーの香

伽羅の香の灰かに僧の
薄衣

晚鐘の余韻に崩る
雲の峰

碧眼の露天商をり
日蓮忌



編集後記

今年の夏は、お洒落なパリオリンピック開催、連日銀・銅メダルを抜く金メダルラッシュで海外開催新記録金メダル18個、全体43個のメダル獲得となり、今迄になく熱い夏となりました。そのせいか、記録的な暑さの中でも皆さんクーラーを利かせて見入ったのではないのでしょうか。(S・S)



梅田小 作品

思い出の作れる池上本門寺 三年 えり口 はるか

わたしは、池上本門寺で行われたほんのおどりのおまつりに行きました。はじめは、行くかどうかまよっていましたが、友だちが

「いっしょに行かない？」

とさそってくれたので、いっしょに行くことになりました。池上本門寺は、いつもい上に、にぎわっていました。2年生のころに行きましたが、まだはつきりとおぼえています。

わたしは、そう合のべん強のときに、池上本門寺を調べることにしました。調べるときはいつでもおむ中になつてしまい、おわりのときがきても、まだまだ続いていると思うほど、わたしは池上本門寺が大すきです。

もし、大人になつても、いつまでも、わたしは池上本門寺のことを一生わすれることはありません。

わたしにとって、池上本門寺は、思い出を作れる大切な場所なのだわたしは思います。



3年 しま村 かな



3年 角岡 理恵



3年 竹下 葵



3年 もり しいな